

胃カメラ 画像診断

苦痛なく楽に

平成29年2月中旬、北見市の胃がん検診の検診結果の通知を受け取った。そこには「精密検査」が必要とあり、早速、北見赤十字病院の消化器内科外来の診察を受け、後日、胃カメラの検査を受けることになった。

事前処置

3月10日、朝食を取らずに朝一番に同院の「内視鏡センター」を訪れた。すでに3人ほどの方が待合スペースにおり、直ぐに順番がきて受付で生年月日の本人確認を受け、小さな紙コップの胃を洗浄するシロップ薬を飲み干した。処置室に案内され、担当の看護師が鎮静剤を注入する注射器を右腕に仮止め

し、「今日一日車の運転は出来ない」と云われた後、待合スペースで待っていた。

カメラ本番

内視鏡検査室。喉に麻酔薬をスプレーされ、カメラに向かい診療ベッドに横になるとベッドが上昇し、血圧測定が行われ、先に装着した注射器に鎮静剤の接続注入です。担当の看護師が



「注入口を連結します」と声を出すとクルーの看護師が「はい」と答え、「バルブを開けます」「ハイ」「注入が始まりました」「ハイ」「注入が終わりました」「ハイ」「バルブを閉めます」「ハイ」と続きます。「まるで駅の列車の指先確認のようだ。マウスピースを口に含み、「鼻から息を吸って、口からゆっくり息を吐いて下さい」と声をかけられ、ゆっくり呼吸する。意識が少しもうろうとしてきます、胃カメラが挿入されていると思われ、異物が身体に入る感覚はない。時間



経過の感覚があまりなく、身を任せて居るうち、検査は終わり、診療ベッドを離れる時少し眠い感じがした。看護師に導かれ、安静休憩ベッドに横になり、2度ほど目を醒ます。「大丈夫ですか」と看護師に声をかけられ、血圧を測定後、安静休憩ベッドを離れ、待合スペースでぼんやりしていた。直ぐに、医師の診断。「逢坂さん、なんと無いですよ、がんでは無いです」とまずその診断の結果を先に話して下さった。その後、「胃炎の傷跡」の画像を見せてくれながら、説明を聞きました。直ぐに理解をすることが出来た。会計で精算をして、徒歩で家路についたのは午前10時を少し回った頃と思う。

あとがき

過去に南館の頃、胃カメラ検査を受診したことがある。身体に異物が入る不快感があり苦しく、時間も随分掛かった記憶がある。今回はとうとうとしているうちに検査が終わわり、私には解らなかつたが、きっと、医師のカメラ操作もスムーズであったものと思っております。鎮静剤の注射の時、スタッフ同士でそのプロセスを一つずつ確認し、検査を受ける人を観察しながらの対応は安心出来るものであった。センターのプロセスは「かいぜん」が積み重なり、内視鏡センターのソフトは新病院の開院を契機

に進化していることを実感した。デミング賞メダル



総合品質管理の進歩に功績のあった民間の団体や個人に授与される賞に「デミング賞」があります。アメリカの品質管理の専門家であるW・エドワーズ・デミング博士からの寄付を契機に設立された。豊田自動車など多くの企業が受賞しています。デミング賞に医療部門が出来たと聞き及んでいます。内視鏡センターはその受賞レベルに近いと感じました。外の病院でも鎮静胃カメラは行われています。ますますの進歩を期待しています。(逢坂信治 記)

編集後記

1面の当初の版は役員一覽でした。改正個人情報保護法全面施工日が平成29年5月30日との情報を確認し、急遽、タマネギ列車に入れ替え。誌面の違和感、ご容赦の程を。講演会の要旨、紙面の制限で十分に記述出来ず、申し訳なく思っています。PETの情報は当方のHP「http://it.doodoo.jp/03sien/series00.html」を参照下さい。4面、その後の関連情報です。平成17年11月、デミング賞を授与する団体・財団法人日本科学技術連盟(日科技連)が設立した「医療の質奨励賞」の第1回受賞に、済生会横浜市南部分院(横浜市港南区、500床)が選ばれたとのこと。(逢坂)